

【恵教研 音楽部会事後研】 ○成果 □課題

〈授業者から〉

- 「宝島」の構成を3つに分け、①（前半）を前時に取り組み、②③を本時に進めた。扱う内容としては、盛りだくさんで時間が足りなくなってしまった。
- 前時に①（前半）をやっておいてよかった。強弱、歌い方の工夫、拍の確認をした。
- 以前、カノンの学習で「音楽のもと」である「音楽の縦と横の関係」「音の重なり」などの言葉が児童から出てきた。既習事項が身についていたため、本時にも確認できてよかった。
- ジャムボードを使う挑戦ができてよかった。

- 時間が足りず、1番のみを最後に歌った。時間があれば2番も歌わせられた。
- 高音部の音程がとれていなかった。
- 導入に7分くらいかかり、かかりすぎたかなと感じる。
- もっと子どもたちの声をひろいたかった。
- 教師主導になってしまった感がある。

〈本時の展開について〉

1. 既習曲などで発声練習

- 「マママ」「ルルル」などいろいろ発声を工夫して行い、身につけている。
- 「君をのせて」の母音のみで発声練習をしたのがよかった。
- 母音意識→言葉がはっきりしてくる。効果的な練習だった。

2. 本時の課題

- 課題「曲の特ちょうにふさわしい歌い方を考えよう。」は、適切だった。

3. 宝島の楽譜から特徴を読み取る

- 楽譜から読み取ることやどのように歌ったらよいかを話し合い、クロームブックに書き込むことができてよかった。
- ②③にしたことがよかった。パートごとに積極的に話し合いをしていた。
- ジャムボードに楽譜を張り付けた楽譜の工夫がよかった。
- 事前に個々で楽譜にイメージを書き込んでおいたのがよかった。十分主体的だった。
- 子どもたちの話し合いの中で、「音の階段」という表現をするなど、思いを工夫した言葉で伝えているのがとてもよい。
- 男女の別なく、だれもが意見を伝え合う姿がとてもよかった。男子も積極的に意見をだし、みんなが話しやすいようにリーダーシップをとるなど素晴らしい。
- グループに2台のタブレットを準備し、1台はジャムボードに書き込み、1台は音源をかけるのに使用したのがよかった。（2台で書き込みをしているパートもあった）
- ジャムボードの使い方がスムーズで、強弱記号やどう歌いたいかを工夫して書き込みをしていたのが、とてもよかった。

- ジャムボードの後半には、宝島のイメージがふくらむよう画像をはりつけていた。
- 自分で考えるという作業がしっかりできていた。
- 伴奏に着目させたのはよかった。伴奏から強弱を考える。
- 「音楽のもと」、「縦と横の重なり」などのおさえもよかった。
- 追いかける、ここはそろえる、盛り上がり、サビなど意識できてよかった。
- 手立てとしての「音楽のもと」がのっている学習シート「音楽を言葉で表現する 使ってみよう！音楽の言葉」が効果的であった。
- 子どもは何を根拠にフォルテと考えていたのか？
→楽譜をしっかり読み取ることを普段からしている。
- 楽譜から忠実に読み取ってから、子どもの気持ちをのせるように指導している。

- 発言は少なかったが、ジャムボードにはたくさん書きこみができていた
- 子どもの「低め」という発言は「おさえめに」という意味であったかもしれない。
「ゆっくり」→「ゆったり」「ひろびろ」という気持ち的な意味だったのでは？
強弱記号のこと？気持ち的なこと？→教師の子どもの言葉の拾い方は適切だったか？
- 付箋に書くより、楽譜に波線を書く方法も、この言葉をこう歌いたいという具体になるのではないか。
- どう表現するか表現方法が先にきていたため、どう歌いたいかという歌詞の意味からどう表現するかを考えさせることも大切。
- 楽譜から読み取るというのが強かった。主になってしまった。高学年だからありかな。低学年だと歌詞から？それがバランスよくできるといい。

まとめ

- 子どもたちは、まとめたことをしっかりやろうとして歌っていてよかった。
- 作曲者の動画も伝え、イメージが広がり、よかった。6拍子を1 2 3 1 2 3でとらえる（波に乗る）イメージもつかめてよかった。
- 時間があれば、今日のポイントを確認してから全体を歌うことをしたかった。

その他

- 題材が「宝島」でよかった。のびやかに歌う姿勢が発達段階に合っている。
- 「音楽のもと」がしっかり身につけていてよい。
- 自分たちで作ろうという気持ちが伝わってきた。深め合っていた。
- 考えたことを歌って試してみることができていて素晴らしかった。
- 男子グループの姿よかった。自然な話し合いが行われていた。
- 教師の伴奏も素晴らしかった。
- 楽譜を分けて与えたほうがよかった？全体をイメージできた方がよかった？
→初めにすべて与えてしまうと、抵抗がある子もいるかと思った。
- 子どもの「だからこう歌う！」がほしかった。
- 3枚の楽譜を最後に繋げればよかったかも。子どもたちは確認したかった。
- 高音の人数が多すぎたかもしれない。
- 気持ち→ピンク 技術→ブルー 色の使い方 模造紙への書き込みの際に配慮必要。

〈ICTの活用について〉

- Chromebook、ジャムボードの使い方よかった。子どもたちは書き込みがスムーズであった。
- グループに2台という使い方が効果的でよかった。
で、それをもとに話し合いを深めることができた。

〈評価に関わって・まとめ〉

★音楽活動を楽しみながら、主体的・共同的に取り組もうとしていたか。

- 主体的、対話的な話し合いができて、よかった。比較もできた
- ICTを使うことで、スムーズな話し合いにつながり、効果的であった。

★曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うか考えていたか。

- 楽譜から曲の特徴を考え、自分たちでどう歌うかを伝え合う活動ができ、表現につながっていた。その後の発表もスムーズになっていて、とてもよかった。
- ふさわしい表現を考える時の手立てとして音楽のもとがのっているシートが有効であった。
- どのように歌うかについて思いや意図をもつことができて、とてもよかった。